

414
A 2141

笑



造幣規則

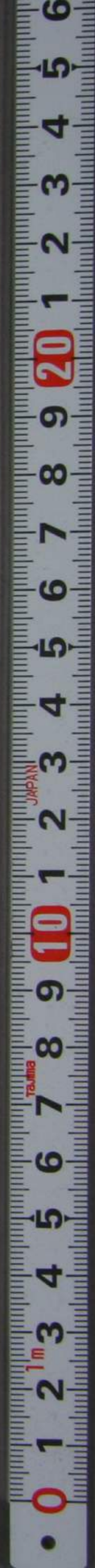
第一條

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

造幣寮地金局ハ來ル五月十二日西洋七月二日ヨリ左
ニ掲載セシ休日ヲ除クノ外毎日朝第十字ヨリ昼後第
一字迄地金受取ノタメ是ヲ開クヘシ

休暇表

毎日曜日 正月^{一日ヨリ}迄 正月七日 正月十五日
三月三日 五月五日 七月七日 七月^{十四日ヨリ}迄



九月九日 九月廿二日 十二月廿八日
廿日止

以上

第二條

萬一造幣ノ要事ニヨリテ造幣ヲ休ムコトアラハ勿論
地金受取方ヲ断ルヘシ

但此場合ニ於テハ速ニ其由ヲ布告スヘシ

第三條

品位並價共詳明ナル銀地金外國銀貨幣並日本一分

ソフ
4
フ

銀トロイ斤二千ヲニス 凡十六貫五
百六十目 金地金並外國金貨幣

八百五十ヲニス 凡一貫二百
四拾ニ叙 メキニコトルラルハ千ヲニス以上之

高ナラハ地金局長即チ造幣權頭直ニ是ヲ受取ルヘ

シ

第四條

品位並價共詳明ナラサル金銀地金並外國或ハ日本貨
幣ハ仮ニ受取置試験審解の上分拆して其品位ト價トヲ
定メ造幣適當ノ品ナラハコレヲ受取ルヘシ

但其斤高ハ第三條ト同様タルヘシ

第五條

右試驗熔解ノ上分析セシ金銀地金造幣不適当
ナラハ之ヲ本人ニ返却シ試驗熔解并分析ノ手数
料ヲ納メシムベシ

第六條

右試驗熔解并分析ノ手数料ハ千三百一圓タルベシ

第七條

品位八百ニ足ラサル銀地金九百ニ足ラサル金地金ハ
造幣寮ニテコレヲ受取ラズ然レトモ別ニ精製ヲ願
フトキハ精製ノ上造幣ノ為メコレヲ受取ルヘシ

但其高ハ第三條ト同様タルヘシ尤右精製料ハ当人
ヨリ差出ヌヘシ

第八條

造幣寮ニ於テ造幣ノ為メ金銀地金請取濟ノ上ハ造
幣手数料ヲ引去殘價本位銀貨を以テ其受取レ日

ヨリ二十日間ニ神戶ニ於テ拂ヘキ令状ヲ渡スヘシ

但右令状ヲ請クルモノ外國人ナル時ハ政府ノ外國為替方

ニテ、社日本人ナル時ハ大藏省為替座ニテ其令状ヲ

拂ヘシ

百事造幣寮規則ニ隨シテ神戶ニアル外國並日本為

替方ニテ金銀地金ヲ預リ速ニ造幣寮ニ送ルヘシ

第九條

本位銀貨ノ造幣手数料ハ百ニ白ニナルベシ

第十條

金銀混合ノ地金貳分金ハ此部類ニ屬スハトロイ斤五百万九四貫百四十斤ニ

以上ノ高ナラバ造幣寮ニ於テコレヲ請取り分拵ノ上

造幣適當ノ地金ハ其價ヲ定テ後コレヲ請取ヘシ

但ニ分拵料ハ金銀混合ノ多クニヨリ其時宜ニ極ム

ヘシ

第十一條

金地金ハ當分ノ純金一兩純銀十五ノ割合タルヘシ

此箇條中追々改ムル事アラハ其段布告スヘシ

第十二條

手摺レタル日本貨幣ハ百ニ百一造幣手數料ヲ差出
ス上ハ六量目又ケノ價ヲ以テ再鑄ノ為請取ルヘシ

第十三條

此規則ハ試見ノ上要用ト思フ廉アレハ尚添箇條ヲ
為之或ハ改正ヲ為スベシ

第十四條

金銀地金ハ規定ノ手續ヲ以テ造幣寮ヘシ送スヘシ

但右手續書ハ願ニ依リ渡スヘシ

千八百七十一年 四月六日

第二

貨幣ノ儀ニ付政府布告

第一條

百奉造幣寮規則ニ隨フ上ハ鑄造ノ為造幣寮ニ差

送ルハキ一分銀メキシコドル元金銀地金請取方トシテ
諸人便利ノ為メ諸開港場則神戶橫濱長崎新瀉
兼箱館ニ於テ大藏省為督方ニ命スヘキ事ヲ爰ニ布

告ス

受取書雛形

證

辛未何番
品位未定

別一 金銀地金何斤

此證書裏面ニ造幣
規則ヲ掲載ス

右之高裏面ニ記載スル造幣規則ニ従ハシ造幣

ノ為メ正ニ誰々ヨリ落手セリ

年号 月 日

役所
姓 名

第二條

定日數二十日ノ外往返日數并運賃危難請負料
等左之通りタルヘシ

ナ

地名	往還日數	運賃并危難請負料
神戸ヨリ大坂迄		
横濱ヨリ同	十五日	
長崎ヨリ同	十五日	
新潟ヨリ同	三十日	
箱館ヨリ同	三十日	

右之通相定候事

辛未 二月

第三條

定位ノ貨幣ハ金銀共何時ニテモ各開港場運上ルニアル大藏省為替方へ申立次第本位ノ貨幣ト引替エヘシ

第四條

新貨幣各種通用制限
 本位一圓 制限大ニ
 定位銀貨 二十五圓迄

日 金貨

五十圓迄

日 銅貨

一圓迄

一千九百二十一年

四月六日

新貨幣ニ付刑法設立ノ忠告

第一條

贋金ノ事

偽作ノ事

偽金ヲ通用シ或ハ所持スル事

第二條

貨幣標面ヲ磨滅スル事

切離ス事

殺ヲ減ラス事

惡意ヲ以テ量目ヲ削リ或ハ減スル事或ハ

貨幣ヲ磨滅スル事

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--



九
痛
省